

# 1. 小規模採卵鶏飼養農場におけるワクモ対策

岩手県県南家畜保健衛生所

○木村 裕子（現中央家畜保健衛生所）

佐々木幸治、平間 ちが



## 【はじめに】

ワクモは主に夜間に宿主から吸血し、養鶏農場、特に採卵鶏飼養農場において大きな問題として取り上げられ、その被害は貧血、衰弱、産卵低下等として現れる。また、ヒトへも寄生し、痒みやアレルギー反応等の影響を及ぼすことが報告されている。今回、1小規模採卵鶏飼養農場でワクモの被害発生状況を調査し、薬剤を使用しない対策について検討したので、その概要について報告する。

## 【発生状況】

平成27年7月、採卵鶏300羽を飼養する1農場において、ワクモの吸血によると思われる貧血、卵重減少と産卵率の低下等が認められ、その対策について当所に相談があった。例年、春先から夏場にかけてワクモが発生していたが、当年は特に発生が多く、生産性低下に加え、管理者も吸血される等、ヒトへの被害も見受けられた。当該農場は、木造牛舎を改修した開放平飼いで、金網で4区画に仕切り、3区画で成鶏を、1区画で育成鶏を飼養していた。なお、オールイン・オールアウト形式は採用せず、連続飼育していた。

## 【対策及び効果確認】

鶏を飼養しながら実施可能であり、かつ、薬剤を使用しない対策として①段ボールを柱などのワクモ生息場所に貼り付け、ワクモを集めて駆除、②熱湯散布と環境資材を活用した駆除を実施、また、ワクモの生息場所の確認及び対策効果判定のため、既法に基づき段ボール等を活用したトラップにより捕獲したワクモの数を実体顕微鏡下で計測し、暗赤色を呈したワクモを吸血群とした。生息場所の把握のため、成鶏舎の各区画4カ所、合計12カ所にトラップを設置したところ、夜間に鶏が休む「止まり木」で多く捕獲されたことから、環境資材等による駆除の前後で各区画2カ所の「止まり木」にトラップを設置し効果を判定した。

## 【結果】

生息場所把握のための測定では、各区画とも「止まり木」で多く捕獲され(3,169匹)、吸血群は68%であった。「止まり木」での環境資材等による駆除の前後で捕獲数は2,094匹から699匹、吸血群は45.7%から6.4%と減少した。

## 【まとめ】

計測回毎に形状・材質を変更したトラップを用いた結果ではあるが、駆除対策の実施により、ワクモ数及び吸血群割合の減少が確認された。卵重は、集中的な駆除対策後の測定で微増傾向を示し、また、管理者の吸血被害や視覚的な不快感が軽減された。